慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アメリカ労働階級の政治運動と社会主義思想
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1930
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.24, No.9 (1930. 9) ,p.1337(1)- 1387(51)
JaLC DOI	10.14991/001.19300901-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19300901-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

秋
天井愛食の
好季節
御晝食は
天井食堂
ときわ
塾正門脇

正確ナル眼鏡

四谷區麹町十三丁目十三番地
清野眼鏡店
電話(35)四谷四五四三番

慶應義塾大學病院御用

三田學會雜誌　第二十四卷　第九號

アメリカ勞働階級の政治運動と社會主義思想

園　乾　治

日　次

一　『ナイツ・オブ・レーバー』の成立
二　『インターナショナル』とアメリカ勞働階級
三　勞働組合運動と政治運動
四　政治運動の隆盛
五　無政府主義とサンヂカリズム
以　上

一　『ナイツ・オブ・レーバー』の成立

一八七三年から一八七九年に至る經濟界の不況は、アメリカ勞働運動に於ける

重大なる時期であつた。從來の全國的同業勞働組合は粉碎せられたか、又は名目上存續するに過ぎぬものとなつた。傭主は勞働組合の制肘を離脱する爲めに、不況失業の脅威に加ふるに、ロックアウト、ブラックリスト、法律上の制裁を以て勞働者に臨むだ。而して斯かる彈壓の下に於ては秘密結社の形態を採る外ないので あつて、『モリー・マグワイアー』(Molly Maguires)の如きは其一種である。モリー・マグワイアーに就ては既に論述したところであるが、(本誌第二十四卷第一號拙稿『ナイツ・オブ・レーバー』成立前の勞働情勢參照)暴力主義は何時迄も勝利を占めることが出來ず、一八七七年の鐵道大ストライキも、終に失敗の運命にあつた。

一八七〇年代に於ける代表的勞働組合は、外來者の侵入を防禦するために秘密結社の形態を採つたが『モリー・マグワイアー』と相異し其手段に於ては平和的であつた。而して此形態の勞働組合である『ナイッ・オブ・レーバー』(勞働騎士團)(Knights of Labor)は一八八〇年代の主要組合であつた。此外同じく『工業主權者團』Sovereign of Industry)『工業同胞團』(Industrial Brotherhood)『七六年の若息團』(Junior Sons of '76)等があつた。然るに前述の經濟界の不況は、他の一方に於て革命運動を盛大ならしめた。社會主義は始めヨーロッパの移民の狹い範圍の間に現はれ、其組織を擴張し、アメリカ勞働階級に主張を訴へ、一八七六年のピッツバーグ大會に於ては、是等の秘密結社たる團體及び社會主義の團體の二者は相共に勞働運動の合同に努力することとなつたのである。

『ナイッ・オブ・レーバー』は正確に言へば『ノーブル・オーダー・オブ・ナイッ・オブ・レーバー』(Noble Order of Knights of Labor)であつて、一八七三年以後の勞働運動に於て重要となつたが、それに先ち一八六九年ユーリアー・スミス・スティーブンス(Uriah Smith Stephens)によつて組織せられたのであつた。スティーブンスは一八二一年八月三日ニュー・ジャーシー州ケープ・メイに生れ、父系の祖父は獨立戰爭に於て戰死し、母系の祖先はクェーカー宗徒であり、バプティストの牧師の教育を受けたが、一八三七年の恐慌の後、仕立屋に年期奉公し、年期あけの後、ニュー・ジャーシーに於て教育を受け、一八四五年フィラデルフィアに移りて仕立屋を營業し、一八五三年西インド、中央アメリカ、メキシコ、太平洋沿岸を旅行し、カリフォルニアに五年滯在したる後、一八五八年再びフィラデルフィアに歸つた。彼は奴隷制度反對運動

を支持し、一八五六年フレモントの爲めに活動し、一八六〇年にはリンカーンの爲めに活動し、一八六一年には南北戰爭反對の勞働者の全國大會に出席した。尙ほ一説によればスティーブンスは一八六〇年代にヨーロッパを訪問し、其處でマルクス主義インターナショナリストと相識るに至つたと言はれてゐる。併し乍ら之に關しては何等の證據が無いのみならず、思想上並に活動上に於て、彼がマルクス主義的であると言ふ暗示は皆無である。一八七八年ペンシルベニア州第五區から代議士の候補者に指名せられ、『ナイツ・オブ・レーバー』の會長の職を辭任して、專心政治運動に從事したが、不幸にして成功しなかつた。然るに彼は不在の儘『ナイツ・オブ・レーバー』の會長に再選せられ、一八七九年一月の第二回大會に出席したが、同年九月の第三回大會に於て書面を以て其職を辭し、それ以來地方的組合に於ては其地位を保持したが、組合全體に對しては關係を有せざることとなつた。而して彼の健康は一八七六年頃より漸次衰へ、一八八二年遂に病を以て歿した。新聞は其葬儀に參列すべきことを勞働團體に對して勸誘したにも拘らず、意外にも淋しくフィラデルフィアのマウント・ピース墓地に埋葬せられた。彼はメーソン、オッド・フェロー、ビシアス騎士團の加盟者であつて、彼の宗教的背景及び共濟組合との關係は『ナイツ・オブ・レーバー』の政策に影響したることが尠くない。彼の勞働運動の哲學は「ソリダリティ」の一語に集約せられる。一八六〇年代及び七〇年代の勞働組合は、孤立してゐたので勢力が微弱であつた。其處で彼は「吾等の大なる同胞組合の合同及び聯合の利益」を力説した。

スティーブンスは八名の同志を糾合して一八六九年十二月二十六日フィラデルフィアに於て最初の地方的組合を組織した。彼並に其仲間は既に一八六二、三年頃組織せられたる被服裁斷工組合の組合員で、一時相當の勢力を得たが衰微した。彼は組合幷に組合員を秘密の被物を以て防禦することによつて、組合が勢力を恢復し得べしと確信し、仕立工が從來組織せる大びらの組合の解體と新しき秘密組合の結成に努力した。而して其最初の企圖として第一地方組合（Assembly I.）は一切の職業の人々の加入を許容し、職業上の事件に容喙せしめざる外は、被服裁斷工と同等の特權を享有せしむることとした。是等の「客員」（sojourners）は宣教師たるの役目を演じ、同僚勞働者を組織し、指導するであらうと期待せられた。何れ

にしても裁斷工以外の者の加入を許したことは、最も急進的なる組合員が、組合を何れの職業たるを問はず一切の勞働者に開放すべしと要求したるに對する、一種の妥協手段であつたが、爾來一年半の間、此團體は非常なる世間の注視を受けることとなつた。

『ナイツ・オブ・レーバー』の主義はスティーブンスが秘密の儀式の内に確定した。「公然の組合組織が數百年の鬪爭を經て、勞働階級の利益を保護し又は增進することを能はざるを知るが故に、吾人は此組合を合法的に結成したのである。」而して「此勞働組合及び協同組合の力を利用することは、無數に存在する資本家階級の先例に倣つたのである。」蓋し「資本家階級は多數の職業部門の一切に於て其の團結を有し、勞働者の人としての希望を粉碎しつゝある。」「吾人は合法の企業及び必要不可缺の資本に反抗し衝突せんと欲するものではない。」「吾人は勞働――唯一の價値又は資本の創造者――の問題に關する健全なる輿論を喚起し、勞働が創造せる價値又は資本の正當にして且つ完全なる配分額を受領するの正當なることを明にするにある。」第二に改正すべきは立法であつて、「吾人は全力を傾注して、勞働と資本との利益の協調をなす法律を支持し、又勞働の苦痛を輕減する法律をも支持する。」第三には共濟給付がある。「吾人は公正にして正常なる報酬を以て相互に雇傭する爲めに合法的にして推奬すべき手段を用ふるであらう。又組合員の中に不幸厄災に遭遇する者がある時は、其生國及び信仰の如何を問はず、吾人の權能の許す限りの援助救濟を與ふるであらう。」

以上の如き主義に基く『ナイツ・オブ・レーバー』の組織も、一八七二年七月に至るまでは、何等の發展を示さなかつたが、一八七三年五月フィラデルフィアに於て主として纖維工より成る六個の地方組合が組織せられた。フィラデルフィア市外及び近接諸州に於ても永續的中央機關の必要が感知せられ、一八七三年の聖誕祭當日三十一個の地方組合を包括する第一地方本部が成立した。爾來東部に於ても『ナイツ・オブ・レーバー』の組織が發達し、間も無くニュー・ジャーシー州ケムデンの第二地方本部が組織せられ、次でピッツバーグの第三地方本部が組織せられた。是等の組合が幾何の加入者を有したるかは正確に知る事は出來ないが、大凡五千人と推算せられる。而して是等の組合員は一八七三年全國的同業勞働組合が粉

碎せられたる爲めに、殘存せる諸地方組合が『ナイツ・オブ・レーバー』に加盟するの利益なることを認めたのであつた。殊に『全國鑛夫組合』(Miners' National Association)機械工、鍛冶工の全國組合、『ナイツ・オブ・セント・クリスピン』、造船工及び塡絮工の全國組合に屬したる地方組合が、斯の如き必要を認めたのであつた。此外從來何れの全國的同業勞働組合にも屬せざりし地方組合、刷毛工、被服工、敷物職工等も『ナイツ・オブ・レーバー』に多數の組合員を供給した。而して是等の組合員は主として東部の工業諸州に散在し、ピッツバーグ以西に及ぶ事はなかつた。

大多數の地方本部は强制的ストライキ基金を所有し、特に石炭業の盛大なる地方に於てはストライキが頻發し、從つて此基金を大に利用せざるを得なかつた。何れにしても『ナイツ・オブ・レーバー』が成立せる後間もなく、全國的團體が組織せられることを諒解した。然るに此問題に就てはフィラデルフィアの第一地方本部とピッツバーグの第三地方本部とが自己の勢力の優越を計り、同時にそれぞれ全國的團體の運動を起し、爲めに兩者の間に漸く不和の感情が擡頭するに至つた。全國的團體の問題に關する最も重要なる案件は秘密結社の問題であり、一八七〇年代の中頃『モリー・マグワイアー』の事件があつて以來、一般に秘密結社たることに一點の疑念を與へるに至つた。加之、カトリック教會は傭主及び一般公衆と協力して極端なる秘密結社の主義に反對し、而して此形態は組合員を確保する上に不便であると加盟組合よりも申出て居る。

『ナイツ・オブ・レーバー』が獨立の全國的團體たる決意を明白になす以前に於て之と同樣に合同せる全國的團體を結成せんとせるものに『七六年の若息』(Junior Sons of '76) があつた。此組合は一八七四年五月ピッツバーグに組織せられたる半秘密結社的組合で、全國的團體たる事を企圖したが、事實に於てはペンシルベニア一州に其活動の範圍が極限せられた。而して當時の總ての勞働團體と同じく其綱領の劈頭に貨幣制度の改革を擧げ、此外特に擧ぐべきものとしては徵兵制度反對、官吏の召還等がある。尙ほ此團體は獨立の政治的活動を推奬し、其爲めに各區、郡及び州等にそれぞれの大會を設くべしと主張した。既に述べたるが如く、此團體は活動の範圍を極限せられて居るが、然かもペンシルベニア州の有力なる勞働指導者の參加を得たるが故に、其影響は決して尠くなかつた。而して一八七五

年十二月二十八日チロンに於て各種の勞働團體を結成する爲めに大會を開く事とし、其招待狀が『ナイツ・オブ・レーバー』のみならず『北アメリカ社會民主黨』(Social Democratic Party of the North America)によりて受諾せられた。此事はアメリカの勞働運動に社會主義が現はれるに至りたる最初であつて、特記に値する事件である。(Commons and Associates; History of Labour in the United States, vol. II, pp. 195-202; Ware, Labor Movement in the United States, pp. 23-27; Perlman, History of Trade Unionism in the United States, pp. 68-69; Ely, Labor Movement in America, p. 75. 尙ほ此處には『ナイツ・オブ・レーバー』の沿革、組織、指導精神等に就て詳細に論述するを得なかつたが、此點に就ては Ely, Labor Movement in the United States pp. 75-91; E. J. James and others, Labor Movement, Problem of To-day, (ed. by G. E. McNeill) pp. 397-428; 北澤新次郎『I・W・W・の先驅としてのナイツ・オブ・レーバー』大原社會問題研究所パンフレット第三冊等がある。此中イリーは其思想及び組織の叙述に於て、マクネイルは沿革の叙述に於て優れてゐる。)

二　『インターナショナル』とアメリカ勞働階級

現代のアメリカに於ける社會主義運動は南北戰爭以後に其起原を發する。一八五〇年代に於ける初期のドイツ系移民の間に於ける社會主義的運動は一八四〇年代に於けるアメリカ出生者間のフーリエー主義と同樣に全體に於て空想的であつた。一八五〇年開始せられたる中央交換銀行の計畫を有せるワイトリングの運動は其翌年フーリエーを模範とせる社會主義的植民地の計畫と變じた。之と同樣に『ドイツ勞働者同盟』(German Workingmen's Alliance)は一八五七年に於ける失業者の運動に其端を發するが、階級の區別を論ぜず總ての人に訴へて協同的社會秩序を招來する事を目的とした。唯だ一八五三年及び一八五四年の短期間のみドイツ系移民の間に勞働運動の目的に關するマルクス的見解が受容せられたに過ぎない。一八五三年四月ニューヨーク市に設立せられたる『一般(アメリカ)勞働者同盟』(General or American Workingmen's Alliance)はカール・マルクスの親友ジョセフ・ワイデメーアー(Joseph Weydemeyer)が發起したるもので、階級鬪爭の主義に基き勞働組合運動と政治運動との必要を承認して居た。

然るに奴隷廢止運動と南北戰爭とは所謂理想主義思想を一掃し、社會主義運動

は一八六〇年代に於て新に行動を起さねばならなかつた。然かも此新しき運動は從來のものと其性質を全く異にして居た。それはヨーロッパに於ける新しき二個の運動から刺戟を受けたからであつた。其一は經濟上の運動であつて、一八六四年ロンドンに於て、カール・マルクスが創設せる『國際勞働者協會』（インターナショナル）（International Working-Men's Association）であり、他の一は一八六三年開始せられたるドイツに於けるラッサール一派の政治運動であつた。インターナショナルは國際社會主義の宣傳の爲めに組織せられたものであると一般に言はれて居るが、事實はイギリスの勞働組合運動の指導者が大陸の勞働者を組織せしめ、大陸からストライキ破壞者の侵入を防禦する實際上の運動に由來するのであつた。カール・マルクスの開會式辭は此事實を示し、それは同時に提出せられたるマッヂニーの意見を代表する演說の草案よりも、イギリスの組合勞働者に受容せられ易きことを示した。マルクスはマッヂニーの勞働協調に反對して勞働者の階級連帶を主張し、彼は資本家の援助を受けずして經營せるロッチデールの協同組合制度に依つてイギリスの勞働者が其理想を實現し、又資本家の反對にも拘らずイギリスの議會が一八四七年の十時間勞働法を制定せる事實に之を見ると指摘した。當時のインターナショナルの原理は勞働組合及び協同組合に於ける勞働階級の經濟上の團體に基礎を置くもので、之は勞働者が政治上の權力を把握するに先だたねばならぬ。而して勞働者の政黨が支配權を實現し得たる曉には、現存する多數の勞働組合及び協同組合を基礎として、社會主義國家を構成することが出來るであらう。

斯の如き見解は、フェルヂナンド・ラッサールの主張と非常なる輕輕がある。ラッサール派の社會主義は一八六三年ライプチッヒの勞働者委員會に與へられたるラッサールの公開狀より生れたもので、シュルッツェ・デーリッチ式任意協同組合に對する反感より出て居る。ラッサールには斯の如き協同組合の基礎をなす勞資協調の思想を排擊し、延ひて一切の勞働階級の經濟上の團體に攻擊の鉾を向けて居る。彼に依れば勞働問題を解決する手段は、政治運動ただ一つあるのみである。而して政治上の支配が實現せられたる曉には、勞働者の政黨は國家の信用の援助に依り協同組合の網が完成せられるであらう。インターナショナルの思想

とラッサールの思想との區別は、簡單に言へば、前者は經濟上の組織を政治上の組織に先行せしめ且つ上位に置くに反し、後者は政治上の勝利が經濟上の組織の基礎をなすと考へて居る。斯の如き相違は、アメリカに於ける社會主義運動の發端より明かであり、後年の勞働組合運動と社會主義運動にも之を見るのである。

アメリカに於けるインターナショナルの歷史は、二期に區別する事が出來る。第一期は一八六六年より一八七〇年に亘り、インターナショナルは何等重要なる組織をアメリカに有しなかつたが移民の國際的統制と言ふ問題を以て、アメリカの勞働組合と提携せんと試みた。然るに第二期に於てはインターナショナルは全國の殆んど總ての大都市に其支部を有し、非常なる勢力を及ぼしたのである。尤も第二期に至る以前に於て若干の先驅者がなかつたのではない。ドイツ系統の『共產黨倶樂部』(Communist Club)が一八五七年十月二十五日共產黨宣言に基いて、ニューヨークに組織せられた。組合員は多數ではなかつたが、エフ・エイ・ゾルゲ(F. A. Sorge)、コンラッド・カール(Conrad Carl)、ジーグフリード・マイヤー(Siegfried Meyer)等が之に參加し、外國の共產黨運動と聯絡を保ち、カール・マルクス、ヨハン・フィリップ・ベッカー(Johann Philipp Becker)等が參加したのである。右の內ゾルゲはアメリカに於ける近世社會主義の父と稱せられ、サクソニーに生れ、一八四九年バーデンに於ける革命に參加し其後二年間スイスに亡命し、一八五一年ロンドンに移り、次いでニューヨークに移り、音樂敎師として生活の資を得て居た。一八七二年ヘーグーに於けるインターナショナルの大會に於てマルクス及びエンゲルスと終生の友となる機會を得、一九〇六年其死に至るまでアメリカに於けるマルクス及びエンゲルスの權威ある紹介者となつた。尙ほ彼は一八九〇年より一八九五年に至るまで『ノイエ・ツァイト』(Neue Zeit)にアメリカ勞働運動史に關する寄稿をなした。

ドイツ系のインターナショナルの最も重要なる先驅者は『一般ドイツ勞働者組合』(Der Allgemeine Deutsche Arbeiterverein)で、之は後にインターナショナルのニューヨーク第一支部として知られるに至り、一八六五年一月、十四名のラッサール主義者によつて創設せられたのであつた。而して其原會則によれば、總ての社會共和黨員殊にフェルジナンド・ラッサールを勞働階級の最も傑出せる鬪士であると看

倣す者を結合するのであつて、ヨーロッパに於ては一般的革命のみが勞働階級の向上する唯一の手段であるが、アメリカに於ては大衆の教化が、投票の有效にして思慮ある使用に不可缺の自信の念を浸潤せしめ、資本の桎梏から勞働者を解放せしむるに至るであらうと述べてゐる。併し乍ら此ニュー・ヨークの組合はラッサール主義に於ける極端の正統派に屬するものでは無く、現に一八六六年十月ドイツの組合に送付せられたる陳情書は右の組合が餘りインターナショナルの主義に接近せることを指摘してゐた。

一八六八年秋此組合は『共產黨倶樂部』と共同してゾルゲを會長とするニュー・ヨーク及び近隣の社會黨を組織した。此政黨は文字通りの社會主義的政黨では無く、賃銀制度を廢止する代りに累進所得稅、紙幣發行權を有する國法銀行の廢止、八時間勞働法等の社會改良手段を要求した。而して此組合の組織はイギリス系アメリカ人及びドイツ系アメリカ人の二部に分たれ、各々執行委員を選び、黨全體の最高執行機關たらしむるのである。然るに此政黨は一八六九年一月其組織を改め爾後『全國勞働組合』(National Labor Union)の第五組合となり、インターナショナルの第一支部となつた。斯の如き改造の後に於ける組合の活動は、宣傳及び教育、特に『資本論』の研究に專念するにあり、毎週の集會に於て社會問題及び政治問題が討論せられた。一八七〇年シンシナティに於ける『全國勞働組合』の年次大會にはゾルゲが派遣せられたが、彼はインターナショナルの參加に贊成する決議の通過を强制することに成功した。同年終に於てはフランス及びボヘミヤに於ても其支部が組織せられたのであるが、是等三個の支部は相提携してインターナショナルの發展に資するところがあつた。ニュー・ヨーク、シカゴ及びウィリアムスブルグに於ける支部の組織は其一例である。

以上の如き急進的移民の外に、アメリカに於てインターナショナルの論議を歡迎したる一團があつた。それは一八四〇年代に於けるフーリエーの運動に依て社會主義的感情を有するに至りたるアメリカ出生の知識階級であつて、彼等は『新民主主義』又は『政治的民主國』(New Democracy or Political Common Wealth)と稱する團體を組織した。彼等の主義は一八五〇年代にウィリアム・ウェスト(William West)が社會改良の眞實の手段として一般投票竝に任意的社會主義を推奬せるに始ま

る。『新民主主義』は『全國勞働組合』の大會にウィリアム・ウェストを派遣したが、一般投票の主張は通過しなかつた。次で一八六九年十月此團體はロンドンに於けるインターナショナルの一般協議會に無政府主義者スティブン・パール・アンドリュース（Stephen Pearl Andrews）の起草せる陳情書を提出した。此書面に於て彼は『全國勞働組合』が時代に二十年遲れて居り、『新民主主義』が時代を解する唯一の團體であることを指摘した。然るに間も無く一八七〇年此團體は解散し、翌年インターナショナルの第九及び第十二支部を構成し、就中、後者は婦人參政權運動の主唱者ビクトリア・ウッドハル（Victoria Woodhull）及びテネシイ・クラフリン（Tennessee Claflin）を主領としてアメリカ支部の牛耳を執つた。

アメリカに於けるインターナショナルの準備中央委員會は宣傳事業に多大の成功を收めた。此委員會はゾルゲを書記とし、ニュー・ヨークの州勞働組合本部と親密の關係を結び、又ペンシルベニア州の『鑛夫慈惠扶助組合』とも友誰的關係を結んだ。然るに宣傳事業の成功は、第十二支部及び他の英語を使用する支部の聯合の活動に依つて阻害せられた。斯の如きドイツ系及びアメリカ系の不和は、漸次に增加し、兩派は何れもロンドンの一般協議會の支持を得んと欲した。然かも一般協議會に其要求を一蹴せらるゝや、一八七一年十一月二十日總計十四を算べる支部の代表者がそれぞれ會合をなし、中央委員會を解體し、二週間を經て準備聯合協議會を組織するに至つたが、第十二支部は極力之に反對を試みた。ロンドンの一般協議會は事情を調査する爲めに一八七二年特別委員會を任命したが、第十二支部は終に除名せられることになつた。然るに第十三支部竝に之に贊成する支部は一八七二年七月フィラデルフィヤに會合をなし、右の判定を拒絕し、其組織せる新聯合體（Confederation）が全くマルクス主義者に正反對なることを主張した。一般協議會に對する反對は必ずしもバクーニンの無政府主義的見解に贊成するものではなかつた。何れにしても彼等は政治に信頼を置き、來るべき政治戰に參加する準備をなしつつあり、ヘーグーに於ける總會に新聯合體を代表するものとしてウィリアム・ウェスト外二名を選んだ。

本來の即ちマルクス派の團體は數日後大會を催し、自ら一般協議會と完全に一致することを宣言し、極度に中央集權的團體の必要を力說した。從つて『聯合協議

會』(Federal Council)に地方支部の出席停止を命じ、或は地方協議會を設立すべきことを命ずる權能を與へた。此大會は政治上の活動の爲めに時機が熟したることを認めなかつたが、然かも總ての政黨の權力竝に影響から勞働階級を救濟し、且つ總て是等の政黨の存在することは勞働階級に對して罪惡であり、脅威であることを示し、勞働階級の利益のために獨自の共同動作をなすべく勞働階級を結合するのは『インターナショナル北アメリカ聯合』(North American Federation of the International)の義務であることを確認した。

一八七二年のヘーグの會議に於てはゾルゲとウェストのみが夫々の團體を代表した。其他の者は資金不足の爲めに出席することが出來なかつた。然かも出席したる右の兩名は多大の注意を集めたのであつて、バクーニン派は彼等の信任狀を否定せんとしたが、マルクス派が支持する信任狀委員會はゾルゲを認め、ウェストの信任狀を否定した。之に對してウェストは抗議しゾルゲは之に援助を與へたが、ウェストは終に出席することが出來なかつた。マルクス派は會議の實權を掌握しバクーニンをインターナショナルから追放した。併し乍ら支配權は事實上彼等の手から逸脫したることを認め、一般協議會をロンドンからバクーニンの勢力の及ばざるニュー・ヨークに移し、信頼するに足るゾルゲの手中に委した。斯の如くして『アメリカ聯合』に與へられたる榮譽は、空虛に過ぎなかつた。蓋し此大會以後インターナショナルは諸國の國內的聯合の衝突の結果急激に勢力を失墜したからである。併し乍らそれは『アメリカ聯合』の生命を延長する助となりたるが故に、全く貢獻なしと言ふことは出來ない。

ゾルゲは一八七二年の夏から秋までヨーロッパに滯在し、其間『アメリカ聯合』は殆んど何等の活動をも示さなかつたが、彼が歸來するや再び活動を始め、先づ第一にインターナショナルの書記長として組合內部の統制を固めんとしたが、此事業は尠からざる苦痛を感ぜしめた。組織の原則に就てバクーニンの見解を支持したる諸聯合は、バクーニンの追放、一般協議會のニュー・ヨーク移轉の何れにも贊成しなかつた。スペイン、イタリー、ベルギー、オランダ等に於ては、何れもバクーニン派を支持し、ドイツに於てはマルクス派が多數であつたが、これは其國內問題の爲めに、多くの注意をインターナショナルの本部移轉問題に費すことが出來なか

つた。何れにしてもニュー・ヨークの一般協議會はヨーロッパ諸國に勢力を及ぼすこと能はず、一八七三年九月ジェネバに開かれたるインターナショナルの最後の大會に對しては、財政上の困難によりて一般協議會から直接代表者を派遣することが出來なかつた。

ヨーロッパに於ける事情は以上の如く多く陰慘であつたが、アメリカに於ては當初頗る活潑であつた。一八七三年ドイツ系の人々はニュー・ヨークに週刊紙『勞働者新聞』(Arbeiter-Zeitung)を創刊し競爭團體たる新聯合體も二年後に衰退して了つた。併し乍ら第一支部の優越せることは絶えず紛爭の原因となつた。第一支部が支配し得ざる唯一の團體はニュー・ヨーク市に於ける地方協議會のみであつた。其結果、第一支部は聯合協議會の存在する地方に地方協議會の存在を許さざる決議を一般投票に依りて決定せんと欲した。此動議に基づく投票の結果は、地方協議會廢止に贊成する者が多數を占めたが、少數の投票は聯合協議會には會則變更の權能無しといふ理由より之に反對したのであつた。これが爲めに反對の急先鋒を擁する第八支部に停權を命じたが、ジェネバに於けるインターナショナルの大會がニュー・ヨークに聯合委員會を殘すことを決議し、其處置の爲めに委員を任命することが必要となり、事態は一層困難となつた。即ち第一支部は自己の權力を失墜せんことを恐れて委員の任命を延期せんとし、次で聯合協議會の彈劾を試み、一般協議會は之は應じて自ら其任務に就くことになつた。

國內大會に於ては第一支部が絶對の支配權を掌握し、一般協議會の行動を承認し、第一支部及び第五支部に停權を命じた。之に反對せる者はアドルフ・ストレッサー(Adolph Strasser)と稱する其頃ドイツより移住せる職工であつた。而して大會は聯合協議會を永久に廢止し、一の統制委員會をボルティモアーに置く事となしたるが故に、之に反對せる一派はインターナショナルを脫退し、ラッサール派の者と共に『北アメリカ社會民主黨』(Social Democratic Party of North America)を組織し、ストレッサーを其の書記に任命した。斯の如き內部の軋轢にも拘らず此大會はアメリカ社會主義史に於て重要なる地位を占むべきものであつた。それは政治運動に對する方針を決定したる決議に之を窺知することが出來るのであつて、『北アメリカ聯合』は有產階級の組織せる何れの政黨にも關係せず、其政治的活動

は本來の勞働階級の利益となるべき立法を得んとするに限られ、而して斯の如き立法の本來の目的は正常勞働時間、災害に對する傭主の責任、賃銀の確保、工場に於ける兒童勞働の廢止、保健衛生設備、勞働統計局の設立、間接稅の全廢にあつた。尙ほ此聯合は充分なる勢力を揮ふことを得るまで選擧戰に臨まず、其時機到來せる時は、先づ第一に都市、續いて郡、州及び全國に亘る活動を開始するのであつた。

一八七三年より一八七四年に至る間のインターナショナル內部に於ける軋轢は、一八七三年九月の金融恐慌より生じたる勞働運動に重要なる役目を演ずる事を不可能ならしめた。若し內部の統制が維持せられたならば、ニュー・ヨークに於て十月末以來喧しくなりたる失業者の運動の指導者となつたであらう。併し乍ら聯合協議會は其現狀に於て出來るだけの活動を試み、救濟事家の計畫を立てた。勿論、初め此計畫はドイツ系勞働者の住居する方面に限られたのであるが、(一)、習慣的賃銀を以て公共事業に勞働者を使用する事、(二)、生活必要品を缺く總ての人に一週間の食料品又は金錢を前貸する事、(三)、家賃不拂の廉を以て何人も退去を命ぜられざる事を自治團體に要求する爲めに團結する計畫であつた。第十區の住民は斯の如き計畫に著手し、其或者は全市に此組織を及ぼし、市民大會を開催すべしと要求した。ドイツ人を主とする集會はニュー・ヨークの全勞働階級を代表するものとは言ひ難いが、彼等は中央委員會を組織し、別に英語を使用する勞働者が保安委員會を組織し、兩者協力の下に一八七四年一月失業者の大示威行列を行ふこととした。初めの計畫に依れば市廳の前に於て解散する筈であつたが、當局の禁ずる所となりたるが爲めに、トムキンス廣場に變更せられたが、其處に於て警官と衝突し、數百名の勞働者が負傷するの慘事を惹起した。之と同樣の計量はインターナショナルの支部と若干の他の勞働團體との共同主催の下に、シカゴに於ても行はれた。

ニュー・ヨークに於けるインターナショナルの第一支部と他の部との軋轢が止むや否や、又新なる不和が發生した。それは『勞働者新聞』(Arbeiter-Zeitung) の論說記者を交迭せしめたるゾルゲに反抗して起ちたる第一支部員の問題であつた。ゾルゲは中正不偏なる論說に滿足せず重役會を動かしてウィルヘルム・リーブクネヒト (Wilhelm Liebknecht) に一個月十ドルの約束を以て一週二回ドイツより通信

を送らしめることとした。此爲めに不平を懷きたる一派は機を得て暴力を以て新聞社を占領し、ゾルグを追放する事に成功した。併し裁判の結果此一派は間もなく失脚するに至つたが是等の事件の爲めに一八七五年三月『勞働者新聞』は廢刊せざるを得なくなつた。

一八七五年に於けるインターナショナルに對する唯一の快事は『アメリカ合同勞働者組合』(United Workers of America)の加盟であつた。これはジェー・ピー・マクドネル(J. P. McDonnell)を主領とせるアイルランド勞働者の小規模の組合で、其會則はインターナショナルの總則と一致するものであつた。マクドネルはダブリンの中産家庭に生れ、同國の獨立運動に參加したるが故に數回投獄せられ、一八六九年以後マルクス及びインターナショナルと密接なる關係を結び、アイルランドを代表してヘーグのインターナショナルの大會に赴き、其處よりニュー・ヨークに移住したのであつた。インターナショナルの解散したる後は、其アメリカに於ける後繼者たる『合衆國勞働黨』(Working-men's Party of the United States)に參加し『レーバー・スタンダード』(Labor Standard)の主筆となつた。一八七七年右の政黨が『社會勞働黨』(Socialist Labor Party)となり、專ら政治運動に沒頭するに到るや之を脱し其機關新聞は彼と共に轉々移動した。一八七八年彼は『國際勞働組合』(International Labor Union)を組織し又此頃ストライキ破壞者にスキャップの名を與へたるが爲めに禁錮二ヶ月罰金五百圓に處せられた。其後彼は煉瓦製造所に於ける恐るべき狀態を公開せる文書を發行したる廉を以て、一八八〇年再び禁錮に處せられた。斯の如くして彼は常にニュー・ジャーシー州の勞働運動の尖端に立ち、一八八三年『ニュー・ジャーシー州勞働組合聯盟』(New Jersey State Federation of Trades and Labor Unions)を組織し、十五個年間會長の職にあり、尙ほパタスン市の諸業勞働組合本部を組織し、勞働時間に關する州法及び國法の進歩に盡し、一九〇六年此世を終つた。

インターナショナルは比較的短命に終つた。而してヨーロッパ諸國に於ては、インターナショナルに變るべき政黨を勞働者が組織したが、之と同じ傾向はアメリカに於ても窺ふことが出來る。(Commons, pp. 204-222; Perlman, pp. 72-76; Ely, pp. 225-227. Hillquit, History of Socialism in the United States, pp. 194-206)

三、勞働組合運動と政治運動

インターナショナルはアメリカに確乎たる地歩を占むるに至るや勞働組合の間にその主義を廣布せしむることとした。然るにバリーに於けるコンミューンの騒擾はインターナショナルに對する反感を喚起したのであるが、英語を使用せざる勞働者特にドイツ系の間にはインターナショナルが非常なる勢力を占めた。當時有力なるドイツ系勞働組合運動の中心はニュー・ヨークの『アルバイター・ユニオン』(Arbeiter Union)で、一八六六年組織せられ『全國勞働組合』(National Labor Union)に加盟して居た。而して同年數箇の組合が共同して『アルバイター・ユニオン出版社』を起して同名の新聞を發行した。此新聞は初め勞働組合運動とシュルッツェ・デーリッチ式協同組合とを推奬したが、其後純然たる産業及び勞働に關する新聞となつた。當時の主筆アドルフ・ドーアイ(Adolph Douai)は綠裏紙幣運動を奉じ勞働者の主要なる敵は利子を生ずる貨幣資本の形態に於ける資本であると說いて居る。而して彼の主張する救濟策は正貨の支拂を再開し綠裏紙幣の價値を額面まで騰貴せしめ、公債と紙幣とを交換し得る計畫を主張した。之に依れば第一に何等の損失を蒙らずして國債の利子を切り下げ、第二に新紙幣の價値を維持する事が出來るのである。序乍らドーアイは一八一九年ドイツのアルテンブルクの貧家に生れ、神學生として大學を卒業したが、希望のイエナ大學に奉職するには餘りに貧窮なりし爲めロシヤの大地主の家庭教師となり、同國に於て學位を得、鄕里に歸りて私學校を起した。此理想主義的教育家は同時に熱心なる社會及び政治上の改革者であり、一八四八年アルテンブルクの革命を指導し一時成功を收めたが、反動に際して筆禍を買ひ一年間投獄せられた。出獄後學校の經營を繼續したが、一八五二年アメリカ、テキサス州に移住し、小新聞を經營したが奴隷廢止論者たる爲めにボストンに去らざるを得なくなつた。而してボストンに於て學校の經營に從事したが、今度は舌禍に依りてニュー・ジャーシー州に移住し研究所を起したが、其の卓越せる意見が却つて時代に容れられざりし爲め、又復ニュー・ヨークに移ることとなつた。其處で彼は學校を經營する傍『アルバイター・ユニオン』の主筆となり、後『ニュー・ヨーク人民新聞』(New-Yorker Volkszeitung)の共同主筆となり、一八八八年歿するまで其地位にあつた。彼がマルクス主義者となつたのは一八七〇年代の初であつて、ゾルゲに次ぐ社會主義運動の主要人物であつた。

間もなくインターナショナルのドイツ諸業勞働組合に對する影響はゾルゲ其他に依りて强大となつたが、フランス・プロシア戰爭の勃發によりてドイツの運動を混亂せしめた。社會主義者は戰爭反對を强調し、諸業勞働組合は同一の態度を持したが、獨立の諸組合は二派に分れて相對立した。ゾルゲがロンドンのインターナショナルの一般協議會に提出したる報告書に依れば、『アルバイター・ユニオン』を支持する爲めに七個のドイツ系の組合が結束し、尙ほ家具製作工組合は先づ勞働組合を組織し、次いで政治上の重要なる地位を占める爲めに勞働黨を組織すべきことを主張した。更らに家具工全國組合も一千四百名の加入者を擁して社會主義的方面に特色を有したが、此他ドイツ系アメリカ活版工組會、『ニュー・ヨーク産業勞働協議會』(Trades and Labour Council of New York)等も相當の活動をなした。

前に述べたるが如くラッサール派の團體は一八六五年組織せられたのであるが、後改造せられてインターナショナルの一支部となつた。然るに一八六九年より一八七三年に至る一大好況は、勞働組合運動を盛ならしむると共にドイツ、フランス及びボヘミアの勞働者に就業の機會を與へ、ラッサールの思思の影響を稀薄ならしめ、更らに一八七三年の恐慌は斯かる事情を一變せしめ、今度は勞働組合運動の可能性を疑はしめ、政治運動に第一の地位を認めしむるに至つた。それ故にラッサールの影響は一八七三年より發生すると言ひ得べく、西部に於ては『イリノイ勞働黨』(Labor Party of Illinois) 東部に於ては『北アメリカ社會民主黨』(Social Democratic Party of North America) がある。

南北戰爭後に於けるシカゴの社會主義運動はニュー・ヨークに次ぐ重要なるものであるが、一八六六年全國勞働組合の大會に於てシカゴのドイツ系勞働組合の代表者がラッサール主義的政治運動に贊成を試み、後一八七三年失業者の運動が市當局を動かしたるに鑑み、翌年前記の勞働黨が成立したのである。此黨派は少年勞働法、囚人勞働法、交通機關の州有、獨占の廢止の外、純然たるラッサール派の要求である協同組合に對する州補助金の下附を綱領となして居る。此黨派は其組織がインターナショナルに類似して居るが勞働組合に對する態度は、極端なるラッサール主義を保つて居る。從つてインターナショナルの一般協議會はフィラデルフィヤに於ける第二回國內大會の報告に於てシカゴの運動は殆んどインター

ナショナルの運動を言ふ事を得ないと述べて居る。現に二三のインターナショナルの支部は、ラッサールの思想の影響を受ぐること大なりと非難せられたものもある。

『イリノイ勞働黨』は一八七四年始めてシカゴ市の選擧運動に於て政治的活動に着手したのであつて、北部のみに候補者を指名して、其勢力を集中したが、一千票以上獲得することは出來なかつた。次いでスプリング・フィールドの農民大會に代表者を送りて農民團體と提携せんと試たが、職業的政治家の爲めに妨げられて遂に共目的を達することが出來なかつた。次いで國會の選擧に於ても候補者を擧げて爭つたが、豫想の二千五百票を裏切り、僅に七百八十五票を得たるに過ぎなかつた。而して以上の如き不成績の爲めに、加入者は漸次減退し、八個の支部に相次で解散する事となつた。尙ほ此政黨の機關新聞は協同組合運動を推奬したが、漸次ラッサール主義よりインターナショナル主義に移り、其主筆も交迭し、勞働組合主義を唱ふるに至り、發行部數も急激に增加した。而して勞働黨とインターナショナルの殘存せる二支部とが合同する計畫が實現せられ、此處に事實上インターナショナルの勝利が明かにせられた。

東部に於けるラッサール主義の實際化は前述の『北アメリカ社會民主黨』であるが、之は『イリノイ勞働黨』の色彩が明瞭でなかつた。蓋し此政黨は數個のラッサール派の團體と若干のインターナショナルの支部とより成り、一八七四年七月ニュー・ヨークに開催せられたる第一回大會に於ては初めより完全にラッサール主義が勢力を占め、勞働者は政治上の活動に勢力を集中するのみならず交通、通商、工業、鑛業、農業に於ける獨占を全廢し、州の保護監督の下に民主的に組織せられる協同組合を要求した。而してアドルフ・ストレッサー（Adolph Strasser）を書記とし、ピー・ゼー・マックグワイアー（P. J. McGuire）を執行委員の內に加へて居た。ストレッサーが社會民主黨に變節するに至りたるは、インターナショナルの主義に不滿なるに依るとせられるかも知れないが、事實に於ては決してインターナショナルの主義を捨てたのではなかつた。實際的思索よりインターナショナルの內部の不和が、アメリカに無關係である事を見出したる爲であつた。彼は運動のアメリカ化を要求したのであつて、ラッサール主義は政治運動の理想より出發し、必然

に運動の國民化を要求した。其結果、彼はラッサール主義を是認するに至つたのである。然るに社會民主黨の勞働組合運動及び政治に對する態度は問も無く問題を起し、黨の機關新聞上に於て、ジー・シー・スティーベリング（G. C. Stiebeling）はインターナショナルに贊成の意見を述べ、執行委員會も勞働組合が我が政黨と密接なる關係を結ばん事を希望する決議を通過せしめた。然るに前記の機關新聞の主筆グスタッフ・リーザー（Gustav Lyser）は勞働組合に極端なる反感を懷き、遂に執行委員を辭し、此處に新聞の論調も一變するに至つた。

一八七五年七月の第二回大會に於ては、社會民主黨は積極的勞働組合對策を採用し、勞働者にとりて勞働組合は不可缺のものにして各人は必らず勞働組合員たる義務ありと述べ、勞働組合運動を非難したる前主筆リーザーを除名することとした。

斯の如くして東部及び西部に於ける論爭に終結を告げ、社會主義運動の融和すべき時期に達した。シカゴに於ては一八七五年の中頃インターナショナルと『イリノイ勞働黨』が事實上一體をなし、ニュー・ヨークに於てはインターナショナル、『合同勞働組合』及び『社會民主黨』が共同に總會を開催した。而して前二者は、國際團體たる形態を維持せんと欲し、社會民主黨は其何等の實益なき事を主張した。それのみならず勞働政策に就ても根本的見解の相違を生じ、從つて何等の協定を得るに至らず、若しもピッツバーグの大會が無かつたなら、合同問題は延期せられざるを得なかつたのである。

一八七五年十二月ペンシルベニヤ州チロンに於て全國大會が開催せられた。此大會に出席せる代表者は百三十二名に達し、社會主義者の代表はマックグァイアーであり、『ナイツ・オブ・レーバー』の代表者はジョージ・ブレイアー（George Bair）であつた。然かも出席者の大部分はペンシルベニヤ州から派遣せられたものであつて、合同に關する委員會は其一切の問題を翌年四月十七日ピッツバーグに開催すべき第二回大會に於て解決すべき事を要求した。然かもピッツバーグの大會はチロンに集まりたる以外の勞働團體を招請することを誤り、社會主義者が間接に代表する外何等勞働組合は代表せられなかつた。加之、古い指導者等は一人も出席しなかつた。遮莫、大會の目的は立法上の要求をなし、政治政策及び勞働階

級の產業上の組織を推奬するにあつた。然かも大會の綱領に關して社會主義者と綠裏紙幣主義者とが說を異にし、大會第一日オットー・ワイデメーアーはインターナショナルの思想を基調とする陳情書を社會主義代表者の爲めに朗讀し、賃銀奴隷の廢止が勞働運動の終局の目的なる事を宣言し、國際勞働運動はヨーロッパのストライキ破壞者の輸入を防禦する爲めに必要なる事を指摘し、勞働組合が政黨を組織することを勸告した。次に社會主義者は州が補助金を下附する協同組合に贊成の決議を採擇したが、綠裏紙幣主義者は再考の動議を提出して之を握潰した。尙ほ決議に關する委員會が綠裏紙幣主義者多數なりし爲め自派に好都合の決議案を作成し少數の差を以て大會を通過したる時、社會主義者は極力抗議し、遂に退席するに至つた。其結果、大會は綠裏紙幣主義に好都合の決議を通過せしめた。通商及び製造に關する協同組合が、賃銀制度より解放せらるゝ道であり、大會は容易なる條件を以て議會が貸附を行ふ事を要求した。尙ほ支那移民の禁止、八時間勞働法、勞働者定住法、內政改革、高利制限、實物賃銀の廢止、其他各種の立法を要求する決議をなした。

政治問題に就ては社會主義及び綠裏紙幣主義者何れも獨立の勞働者政黨を組織することに贊成し、次に勞働團體に就ては『ナイツ・オブ・レーバー』の影響を受けブラックリストの制度に關して注意を拂ひ、秘密結社の形態を以て全國の男女勞働者が團結すべきことを勸告して居る。併し乍ら何等勞働力の合同に關して爲す所なかりしは驚くべく、此大會は何人にも充分なる滿足を與ふる事が出來なかつたのである。社會主義者は綠裏紙幣主義の綱領を採擇せる爲めに脫退し、勞働組合論者は秘密結社の勸告に不滿を懷いたのであつた。斯の如くして一般勞働者會議の時代が期待せられるのであつた。（Commons, pp. 223-239; Ware, pp. 43-45; Perlman, pp. 74-76; Hillquit, pp. 194-206, pp. 207-219; James, P. 149）

四、政治運動の隆昌

一八七六年のピッツバーグの大會は社會主義に加担することを拒絕したけれども、之に好意を寄せてゐたことは明かで、合同委員會が併合の問題を決定せる場合にも、インターナショナルの勝利を第一條件としたのであつた。而して愈合同大會が一八七六年七月十九日フィラデルフィアに於て開催せられるや、『インター

ナショナル』、『イリノイ勞働黨』、『シンシナティ勞働者社會政治協會』、『社會民主黨』の代表者が出席し、『合衆國勞働黨』(Workingmen's Party of the United States)と稱する政黨を組織し、インターナショナルの總則より主義の宣言を草し、社會民主黨の政綱より要求條項を採つたのであるが、併し乍ら政治上の活動及び勞働組合運動に關してはインターナショナルと同じ地位に立つた。而して組織の問題に就ては社會民主黨に讓歩し、國内的團體として國際的團體たらしめざることとした。尙ほ會則は執行委員會と統制委員會とを設け、前者は事情が好都合なる場合に於ては、地方支部が選擧戰に臨むことを許諾する權能を有した。而して機關新聞としてはシカゴに『フォルボーテ』(Vorbote)ニューヨークに『ソチアール・デモクラット』(Sozial-Demokrat)(後に『アルバイター・スチムメ』(Arbeiter-Stimme)と改題)があり、英文では『ソシアリスト』(Socialist)(後に『レーバー・スタンダード』(Labor Standard))がある。

併し乍ら社會主義的分子の統一は運動内部に於ける不同を一掃することが出來なかつた。インターナショナル主義者とラッサール主義者との二分派が依然として存在した。然かも其の不同は減少せしめられ、其本質のみ存續した。それと同時にラッサール主義者とインターナショナル主義者と言ふ言葉は、政治的社會主義者と勞働組合社會主義者と言ふ簡單なる言葉に代つた。而して統一の協議に於て後者が勝利を占めたのは、全國的勞働大會(National Labor Convention)を獲得することが其指導者たる地位を堅實ならしむるに必要であつたからである。此事は全國執行委員會の選擧後間も無く明白となつた。ニュー・ヘブンの支部が州立法部に對する候補者を指名する許諾を求めたる時、反對者あるにも拘らず、政治運動に好意を有せる全國書記フィリップ・バン・バッテン(Philip Van Patten)が之を承認した。然るにニュー・ヘブンの經驗は極めて好調であつたから、全國を通じて政治運動に對する興味を喚起せしめ、シンシナティ及びミルウォーキーに於て實際運動に着手せられ、勞働組合派の中心地なるシカゴに於ても選擧戰に參加する氣運が濃厚となつて來た。加之、其得票の成績は更らに勇氣を鼓舞し、勞働組合會議が課せる制限に對して不滿を感ぜしめるに至つた。而して既に一八七七年二月ニュー・ヨークのドイツ系支部が、勞働組合派に傾けるニュワークのドイツ系支部に對して、大會の開催を繰上ぐべき提案の贊成を求めたが、之を肯じなかつたこ

とがある。之は政治運動派と勞働組合派との抗爭を示すもので、ニュー・ヨークのオットー・ウォルスター（Otto Walster）の主宰する『アルバイター・スチムメ』は此問題に就ては始め嚴正中立の態度を保つたが、後、頑固なる勞働組合派の非を鳴らし、之に對してマクドネルの『レーバー・スタンダード』は正反對の立場を採り、シカゴの『フォルボーテ』も之に和した。併し乍らバン・バッテンの勢力を受けたる全國執行委員會は政治運動派に味方し、マックグワイアーに急信を送つて之が爲めに更に廣く全國に遊説せしめたのであつた。斯の如くして同年五月兩派の抗爭は其極點に達し、『レーバー・スタンダード』の停刊と全國統制委員會の同意による再刊事件とは、政治運動派の陣營に動搖を來し、全國執行委員會をして統制委員會乘取の非常手段をも敢行せしめた。

然るに間も無く此二派の議論よりも、其優劣を決定するに就て有力なる分子が出現した。それは一八七七年七月一大ストライキが勃發し全國に波及したることであつて、勞働黨は全く不意打を喫したが、諸都市の社會主義者の團體及び個人は此突發事件を十分利用した。乃ちセント・ルイスに於ては民衆大會を開催し、勞働者の利益を擁護する爲めに執行委員を擧げ、一週間以上に亘つて全市を支配し、然かも委員の氏名は一切之を知ることが出來なかつた。シカゴに於ては事件の勃發を待つことなくして、事前に警察の暴壓が企てられ、ストライキを行へる家具工の大會會場が襲擊せられ、多數の死傷者を出した。其處で全國執行委員會は民衆大會を召集し、八時間勞働法、騷擾法の廢止、鐵道及び電信の國有を要求する事となり、シカゴ、ブルクリン、ニューヨーク、バタースン等に於て社會主義者の眼覺しい活躍が行はれ、ルイスビルに於ては立法部に七名の候補者を擧げ、其内五名の當選者を得ることが出來た。

以上の如く黨内に於ける二派の鬪爭は、政治運動派に有利に轉回したが、兩派は勞働組合會議の決定にも拘らず、次の鬪爭の準備に着手した。其一方に於て地方支部は一八七七年秋に於ける選擧に候補者を立て相當の成功を收めたが、多くの都市に於ては綠裏紙幣主義者と妥協し、其政綱を共通にし或は提携した。而して十二月二十六日ニューヨークに開催せられたる大會は、初めより政治運動派が牛耳を執り、勞働組合派を壓迫したるのみならず、其黨名を『社會勞働黨』（Socialist Labor

Party)と改め、主義の宣言並に會則に根本的改正を加へた。之に依りて政治運動が黨の主要なる職能とせられ、黨の役員は尠くとも一年間黨員たることを條件とするに至つた。尙ほ黨は勞働組合と友誼的關係を保ち、社會主義的原則に基いて組合が成立する事を促進すべしと言つた。此他黨の組織に關しても種々の改革が行はれ、斯くして此『社會勞働黨』は選擧戰の支配をなすべき永久的職能に適切なるものとなつた。而して間もなく翌年春の選擧が近づき、シカゴ、シンシナティ、ミルウォーキーに於て數名の候補者が指名せられ、シカゴに於ては二名が市參事會員に當選した。これは勞働組合と密接なる關係を保ちたる結果であつて、シンシナティに於ては斯の如き關係がなかつたから、前年に比して得票が半減した。

シカゴに於ける勞働組合派と全國執行委員會との不和は、勞働者軍隊組織の問題に就て其極點に達した。斯の如き組織はシカゴのドイツ系社會主義者により一八七五年創設せられたのであるが、一八七七年七月家具工のストライキの時警察の加へたる彈壓は其必要を一派に認められる事となり、シカゴの此先例に倣ふものが諸都市に現はれ、全國執行委員會をして之を否認する警告を發せしむるに至つた。之に對してシカゴの『フォルボーテ』は其必要なる所以を說き、之に對抗した。當時此新聞はグスタッフ・リーザーが主筆となり社會主義諸新聞中に在りて唯一の軍隊組織擁護論者であつたが、執行委員會は直ちに此新聞の機關紙たる資格を剝奪し一個月後其經營者が變更せられたるにも拘らず、其論調を改めなかつた。斯の如くして全國執行委員會の報告書中に於てバン・バッテンをして內訌を嘆ぜしめたが、彼がシカゴに英文の機關新聞を設立する提案をなしたることより妥協が成立した。而して此新聞は『ソシアリスト』と稱せられ、一八七八年九月十四日初號を發行し、勞働組合派に好意を有するものであつた。

而して次の國內及び州內の選擧戰に於てシカゴの社會主義者は總得票七千を得、立法部に四名の議員を送ることが出來た。斯くしてシカゴは重要なる社會主義運動の中心地たるに至り、政治運動派はトーマス・ゼイ・モルガン(Thomas J. Morgan)を中心として勞働組合派と平和裡に協力し、尠からざる勢力を立法部に及ぼし、州內の產業不況の原因を調査する合同委員會を組織し、其外、兩者の主要人物が相互に各種の機關の役員となつたのである。從つて、一八七九年四月の市會議

員選擧に於て一萬二千の得票を算し、三名の市會議員を得たることには何等の不思議がない。而して此結果一方に於て政治運動派の勢力を增加せしめると共に、勞働組合派の態度を變ぜしむることゝなつた。加之、一八七九年產業好況に復すると共に、社會主義者の成功は終を告げ、同年秋の選擧に於ける彼等の得票は四千八百に激減した。『フォルボーテ』は之を景氣の恢復せるに原因すると言ひ、反對派は之を勞働組合の離乖に依ると述べて居る。

次の『社會勞働黨』の全國大會は一八七九年十二月アレガニー市に開催せられたが、主要なる討論の中心は選擧戰に於ける候補者の指名のみならず、政綱の作成に於ても總ての自由主義團體及び勞働團體と妥協することを說くブルクリン及びフィラデルフィアの一派、綠裏紙幣主義者の大會に代表者を派遣すべしと說くセント・ルイス、シカゴ其他中西部の一派、最後に社會黨は他の黨派を考慮する事なく候補者を指名すべしと主張するニュー・ヨーク、ボストンの一派があつた。併し乍ら大會は此三派の何れにも味方せず、各派より投票によりて三名を擧げ議長及び副議長を決定し、又全國書記を任命したる後閉會した。

『社會勞働黨』は綠裏紙幣主義者の大會に代表者を送るべきことを決議しなかつたが、社會主義者は『シカゴ八時間勞働聯盟』(Chicago Eight-Hour League)の代表者たるバーンスが代表した。而して『社會勞働黨』は前記の大會が招集せるシカゴの大會に候補者を派遣することを決議し、此大會に於て「土地光線、空氣及び水が總ての人類に對して自然の無償の賜物であり、且つ是等の賜物を各人の有する權利以上に獨占することを許さず、又他人の權利を侵すことを許す社會の立法及び慣習は非難排斥せざるべからず」と言ふ政綱を採擇せしめた。斯の如き政綱は時に社會主義的には非れども、綠裏紙幣主義の指導者は其の承認を肯じなかつた。併し巧妙なる馳引によりて遂に大多數を以て之が通過を圖る事が出來たのであつた。之は社會勞働黨の政綱であつたが、シカゴに於ける一八七九年秋と、一八八〇年春に於ける選擧の結果は、彼等を失望せしむる事が尠くなかつた。

斯の如き事情に於てはドイツ系及びスカンヂナビア系の支配する勞働組合派をして綠裏紙幣主義との妥協に對抗して蹴起せしめた。然るにアメリカ系の者は前者に對抗したるが故に、此處に勞働組合派と政治運動派との間に於けると同

様の闘爭が生ずる事となつた。而して斯の如き闘爭は、單にシカゴのみに止まらずニュー・ヨークにも存在したのであるが、ニュー・ヨークに於ては、彼等は必ずしも勞働組合派と一致するものではなく、社會主義者中の溫和派と急進派の別に出るものであつた。而して此問題に關して一般投票をなしたる結果、ニュー・ヨーク、ローレンス、ニュー・オルリーンス、シカゴのドイツ系及びスカンヂナビア系を除く各支部は妥協に贊成した。此一般投票の結果に對して、シカゴ及びニュー・ヨークの反對者は直ちに反抗の氣勢を擧げた。而して大統領候補者の選擧の結果は、正しく實情を反映せるものと言ふべく、綠裏紙幣黨も敗北したけれど、社會勞働黨はそれ以上激しき打擊を受けた。斯の如くして一八八〇年の選擧は、社會主義の政治的勢力を一八七六年の政治運動の勃興以前の狀態に引戻し、其一方に於て社會主義運動が東都諸市に於ては純然たる無政府主義の運動に發展し、シカゴ及び中西部に於ては無政府主義的勞働組合運動、即ち一種のサンヂカリズムの運動に發展するに至つた。(Commons, pp. 269-290; Hillquit, pp. 235-236)

五、無政府主義とサンヂカリズム

『社會勞働黨』は一八八〇年の選擧以來其黨員を減少し、內部に二派の對立を明かならしめた。シカゴに於けるドイツ系、ボヘミヤ系、スカンヂナビヤ系其他の急進分子は、全國執行委員の改選を要求して大會を催した。此大會に於ては勞働組合運動に重きを置くべき將來の活動に關する急進的計畫を立て、勞働者の軍備組織を勸め、政治的活動は好望の地方に於てのみ推奬すべきものであるとせられた。併し乍らイギリス系の一般社會主義者は全國執行委員會を維持し、前述の急進派の決議に參加しなかつた。次にニュー・ヨークに於ても急進派と溫和派との對立が行はれ、急進派は『社會勞働黨』を脫退して『社會××倶樂部』を組織し多數の新來ドイツ系移民を部員として居た。而して×××社會主義者を糾合する計畫は、一八八一年十月シカゴに開催せられたる大會に於て企られた。此大會の招待狀はニュー・ヨークより發せられたのであるが、其處の××倶樂部は間もなく黑色インターナショナル(Black International)に參加した。これはロンドンに本部を有し一八八一年七月組織せられたるヨーロッパに於ける×××主義者の團體であつた。ニュー・ヨークの大會に於て最も急進的なる意見を述べたる者はニュー・ヨークの

代表者であつてジュスタス・シュワップ(Justus Schwab)は政治運動を極度に排斥し、又黑色インターナショナルのロンドン大會に贊成し、勞働階級の權利を擁護するために武裝する事に、贊成した。此の新しい團體は×××社會黨であつて、自治團體の弛緩せる聯合體であり、加盟團體に通報を與へる本部を有する意圖であつた。然るにシカゴの團體は大會の決議に關して一般投票が完了するに先だち、一八八二年春シカゴ市の選擧に活動する決心をなし、純然たる×××政綱を掲げ、社會勞働黨と協力する事を拒絶して出陣した。其結果は勿論極めて僅なる投票を得たるに過ぎなかつたが殊に社會勞働黨にとつては致命的打擊であつた。そは兎に角一八八二年二月前年の大會に於ける自治的團體の原則を樹立せる決議が承認せられ、中央委員會の組織竝に費用の負擔が決定せられ、通報本部が設立せられることになつたが、ニュー・ヨークの團體はそれを承認することを躊躇し、翌年の大會に持越すことになつた。

一八八三年十月ピッツバーグに於ける大會は主として西部を代表する社會×運動の勞働組合派と東部の純然たる×××主義者との二派に別れ、而して後者はヨハン・モスト(Johann Most)をその代表者としてゐる。モストの思想は明白に×××主義的であつて、彼の理想とする社會は生産者の緊密ならざる聯合體の集成であつた。團體的の交換は紙幣を使用して行はれ、各團體は絶對の×××主義たることも、或は仕事に對して賃銀を支拂ふ制度も出來るのであるが、何等團體に對する優越的權力は存在せず、×××教會とは廢止せられるのであつた。×××主義と資本主義との間には一時的平和も存在せずと彼は言ふ。又彼は勞働組合運動を信頼せず政治運動をも信頼しなかつた。モストの思想は以上の如くであるが、彼の生涯を略記すれば、一八四六年ドイツ、アウグスブルクに生れ、一八六八年ウィーンに移住し、革命運動のために五年間投獄せられ、一八七一年釋放せらるるやドイツに歸り、マルクス派中の最左翼に屬して活動した。其後數回投獄せられ、一八七八年ロンドンに移り、週刊新聞『フライハイト』(Die Freiheit)を發行した。此頃彼はバクーニン派の友人の感化によりて×××主義者となり、一八八一年ロシアのアレキサンダー二世の崩御に關して筆禍を買ひ、六ヶ月の禁錮に處せられ、其後一八八二年アメリカに渡り、全國を遊説したる後、ニュー・ヨークに定住し、『フライハイ

ト』の刊行を再開した。

そは兎に角ピッツバーグの大會の事業はモストとシカゴ派との妥協によりて行はれた。決議の原案は賃銀制度の廢止に對する勞働組合の闘爭に關するものであつたが、大會が發表したる宣言書は、モストの思想によりて起草せられ『ピッツバーグ宣言』(Pittsburgh Manifesto of the International Working People's Association)と稱せられ、『共産黨宣言』より借用したものであつた。此宣言書はアメリカ×××主義史に於ける最も重要なる文献であつた。ピッツバーグに成立したる國内聯合は社會の脅威物であつて其一大中心はシカゴであつた。シカゴには既に述べたる如く、×××主義と勞働組合運動とに依りて一種のサンヂカリズムの運動を生じて居た。彼等の理想的社會は任意の協同團體を構成するにあり、憲法、法律又は規則は不必要なりとせられた。而して彼等が×××主義者に加へられざるは勞働組合の重要性を認めたる點にある。此勞働組合は資本主義的生産組織の必然的産物であるが普遍的自由協同制度の下に於ても存續するものであつた。

而して是等シカゴ派の理想とする組合は一八八五年組織せられたる『アメリカ金屬勞働者聯合組合』(Metal Workers' Federation Union of America)であつた。其主義の宣言には次の如く言つて居る「勞働の解放は勞働時間の制限又は賃銀の規定に依りて齎すことが出來ない。賃銀の値上又は勞働時間短縮の要求が承認せられた時は、それは單に勞働の一時的の狀態が改造せられるに過ぎない。現在多數の勞働組合の組織形態は少數の委員が支配するが故に缺陷がある。(以下四行省略)我々の團體は新しき社會狀態のために組合員を教育する學校とならねばならぬ。それと共に人間として生活するに足る報酬を確保する事を目的としなくてはならぬ」と。

以上の如く金屬勞働組合の内に現代のサンヂカリズム思想の特色を殆ど總て見出すのである。然し乍らサンヂカリストの運動は此時に發せるに非ずして一八八四年より一八八七年に至る勞働運動の勃興に待たねばならなかつた。(Commons, pp. 290-300; Ely, pp. 228-230; Perlman, pp. 75-80; Hillquit, pp. 230-238)（完）

（昭和五年八月二十日稿）